

2021 年度入試に向けて

～各教科からのアドバイス～

▼ 国語

出題の特徴として、3,000字程度の長文が2題出題されます。説明文（評論文）と小説（随筆）です。説明文では、接続詞や副詞などに注目したり、傍線が引かれた設問部分に着目することも重要ですが、本文全体からその部分を捉え直すという視点を忘れないようにして下さい。随筆や小説では、変化（成長）を主題とするものが多いです。出来事と登場人物との関係と、そこから引き起こされる心情との関連を押さえることが必要です。

文章を正確に読み取ること、丁寧な解答を作成することが求められます。日頃から本や新聞に親しみ、ニュースなどの情報にも関心を持ちましょう。要約の練習などもしておくといよいでしょう。また、古文や文法についても出題されることがあるので、中学校で習う基礎的な知識は身につけておいて下さい。

試験時間と配点は、A日程・B日程ともに、50分100点となっています。

▼ 数学

問題の構成は、例年と大きな変化はありません。基本計算から各分野の応用問題まで幅広く出題します。難易は、いわゆる「ひらめき」が必要となるような難問はなく、基本事項や定理を適切に用いることで解答できる問題を出题しています。また、問題文がやや長い問題や図表やグラフを読み取る必要がある問題も出題します。問題文を丁寧に読み、条件を適切に読み取る力も必要となります。

対策としては、計算力をまず高めること。文字式の基本計算、展開、因数分解など、繰り返し練習して下さい。そして、教科書の基本事項を確認し、標準的な問題集、過去問題集と学習を進めていって下さい。その際には「なぜ、そうなるのか？」を常に考えて取り組むといよいでしょう。試験時間は50分と限られていますので、時間配分を考えながら過去の問題に取り組むなど、本番を想定した学習も効果的です。

▼ 理科

理科の4分野（物理・化学・生物・地学）のバランスを考えて、各分野から1題ずつ出題しています。分野ごとの配点は均等にし、偏りがないよう配慮しています。基本的な知識を用いて考察する問題を各分野に配置して基礎力を見ます。そして、図や実験結果を示した表やグラフなどをしっかりと読み取り、物事の本質を理解して、解答を導く力があるかどうかで応用力を見ています。

今後の対策としては、「理科用語を暗記している」「公式に当てはめて答を導ける」という学習ではなく、実験の結果から考え方を理解した上で解答したり、問題文に書かれていることを読み取り、そこから解答を導くような学習を心がけて下さい。理科では、基本的な用語の習得だけではなく、それらを自由に使いこなす力が必要です。「わかる」と「できる」は同じではありません。その差を埋める問題演習をしっかりとこなしていきましょう。

▼ 社会

社会の3科目（地理・歴史・公民）から各2題ずつ出題し、それぞれの科目において分野が偏ることのないよう配慮しています。基本的な知識を使って考察する問題をそれぞれの大問に配置し、また、グラフや表、地形図を元に考える問題を多く出題しています。教科書に太字で示されているような基本的語句は最重要ですが、語句に対する深い理解が必要になってきますので、しっかりと対策しておいて下さい。

試験時間は40分と長くはないので、難しい問題や時間のかかりそうな問題は後回しにするという工夫も必要かも知れません。また、時事問題の対策もしておいて下さい。難問・奇問は出題しませんが、最近のテレビや新聞のニュースにどのような話題が出てきているか、常に興味を持って見ておいて欲しいと思います。

▼ 英語

教科を問わず、今後の学習のキーワードは、「読解力」です。英語の学習でも、長い文章を読み、その内容を大まかに理解する力が必要で、基礎となる国語力も必要になってきます。また、試験の場合は、読むスピードも大切になってきます。

学習のポイントはこの3つです。一つ目はまず英文法を固めること。問題集など、各単元の例文を何も見ずに言えるくらいにはならないといけません。そしてこの英文法の基礎をもって、長文の読解練習を進めていきましょう。知っている英単語、語彙数も長文を読みながらどんどん増やしていきましょう。そして、4技能を意識して、言ったり、聞いたりも取り入れながら、楽しみながら、でも毎日すこしずつ学習を続けましょう。学問に王道なしといいますが、英語は「教科」である前に「言語」ですので、継続が何よりも重要です。